

まず始めに、元日に発生した能登地震では、たくさんの犠牲があり、今なお、避難生活を強いられている多くの方がおられることに心が痛みます。自分たちの校舎で学校生活を送ることができない多くの子どもたちも被災地にいます。

そのような中、創立一五〇周年をお祝いするこの記念式典に、こうして集えることは、とてもありがたいことで、また、皆様とのご縁を感じます。

ご来賓の皆様。地域・保護者の皆様。本日は記念式典にご列席いただき誠にありがとうございます。皆様のいつも変わることのない温かなご理解とご支援があるからこそ、姫島小学校は今日のハシの日を迎えることができました。深く感謝の気持ちを申しあげます。

五年生・六年生の皆さん。母校の創立一五〇年の節目の年に学校を代表する高学年児童として学んでいること。これはめったにない貴重な機会です。思い切り胸を張ってほしいです。

私を含め教職員の皆さん。勤務校の創立一五〇年の節目の年に学校運営の一員として力を発揮できること。これもまた、めったにない貴重な機会だと思います。

そして、このお祝いのために、たくさんの時間と労力をかけて、さまざまな準備を進めてくださった創立一五〇周年記念事

業委員の皆様。皆様の子どもたちと姫島小学校・姫島地域を愛する気持ちとご尽力のおかげで、今日、この日があります。本当に、ありがとうございます。

この晴れやかで誇らしいお祝いの気持ちをこの場に集うすべての人で共有できましたら、これに勝る喜びはございません。

明治七年二月一日の創立。慈雲寺と遍満寺の一角から始まり今に至るまでの一五〇年の年月。どれほどたくさんの子どもたちが姫島小学校で学んだことでしょう。どれほどたくさんの保護者・地域の皆様が姫島小学校を支えてくださったことでしょう。どれほどたくさんの方々が子どもたちの教育に情熱を注いだことでしょう。平穏な時ばかりではなく、戦争や災害や公害など、苦しい時もたくさんあったことだと思います。だけど、いつの時も、子どもたちは笑顔と前向きな気持ちを、子どもたちを支える大人たちは温かな愛情を、それぞれ失わなかったことであろうと信じていることができます。一五〇年という歴史の重みをひしひしと感じます。

この一五〇年の創立記念を迎える三学期の始業式。校長講話として、――姫島小学校は、これまで長い間、子どもたちの「成長」のゴールとして「強い子」を育てることを目指してきました。では、「強い子」とはどんな子だと思いますか――と問いか

けることから始めました。

長く受け継がれている姫島小学校の教育理念であり教育目標でもある「強い子」の育成。創立一五〇年の節目にあらためて「強い子」について考えてみたい。そのように思う日々です。

過去と現在では、厳しさの中身は違うと思いますが、過去も現在もそして未来も、厳しい世の中であることに違いはないと思います。そのような厳しい世の中をたくましく生き抜いていける自信に思える「強み」(――これは、良いところ・長所と言い換えてもよいと思います――)を確かに身につけている子どもたち。そのような子どもたちが「強い子」であると考えています。

それは、自信に思える学力かもしれない。自信に思える体力や運動能力かもしれない。自信に思える優しさや思いやりの心かもしれない。豊かな感性かもしれない。そのような自信に思える「強み」を、子どもたちには、一つでも多く確かに身につけてほしいと願ってやみません。

校歌には、「我らの息吹もえあがる 誇りも高き 姫島校」とあります。また、「栄えある歴史胸にして 永久に輝け 姫島校」ともあります。これまでも。そして、これから。まさにそのよ  
うな姫島小学校でありつづけることを強く願っています。

以上、姫島小学校創立一五〇周年記念式典の式辞とさせていただきます。

た  
だ  
き  
ま  
す  
。

令  
和  
六  
年  
二  
月  
三  
日

大  
阪  
市  
立  
姫  
島  
小  
学  
校  
校  
長  
吉  
田  
健  
太